

トヨタ財団

2011（平成 23）年度 研究助成プログラム

募集要項

「よりよい未来を築く知の探究」

募集期間：

Web提出

2011年4月1日（金）～2011年5月13日（金）17時

郵送等提出

2011年4月1日（金）～2011年5月12日（木）当日消印有効

2011年4月

I プログラムの趣旨

トヨタ財団研究助成プログラムは、民間財団としての独自の立場から、既存の枠組みに囚われない、柔軟な発想にもとづいた先駆的な研究に対して助成を行ってきました。1975年の開始以来、折にふれプログラムの改訂を重ねてまいりましたが、知の探究を通じて多面的な価値観を認め合う、想像力と活力に満ちた社会の実現に貢献したいという願いは変わりません。今年度は、昨年掲げられた「トヨタ財団ビジョン 2010」を踏まえ、新たなテーマ「よりよい未来を築く知の探究」のもと、意欲的かつ社会的意義の大きい研究を募ります。

今日私たちが生きる世界は、科学技術の発展やグローバル化の進行の一方、激動する社会情勢において政治・経済危機の頻発や予期せぬ大規模災害の発生、自然環境の破壊などさまざまな要因が入り組む多くの課題に直面し、世界的な規模でパラダイムの転換を迫られる事態に陥っています。そうしたなか、研究を取り巻く環境は、研究分野の細分化・専門化や評価主義・成果主義等が進む状況にあって、現代社会の抱える諸課題に必ずしも対応しているとは言えません。

しかしながら研究とは本来、私たちが生来もつ知への飽くなき探求心に立脚した不断の営みであり、世界のありかたそのものを根源的に問いかけ、そして実際に世界を変革しうる創造的な力を持つものです。知的好奇心にねざした試行錯誤のプロセスは、私たち人類に豊穡な文化の奥行きと新たな価値観をもたらし、次の発見を生み出すための土壌となります。加えて私たちにすでに共有された諸々の社会的課題に対しては、研究がそれらの解決のためのより直接的な行動の源として、その道筋を力強く示してゆくことも期待されます。

これらの問題意識から、本プログラムでは、従来までの研究分野ごとの枠組みを統合し、それぞれの研究の段階や性質に応じた2つのカテゴリ（A, B）から計3つの枠組みで募集を行います。いずれの枠組みにも共通するのは、その研究が、人と人、人と文化、人と自然といった関係に新たなつながりを見出し、その形成を通して人びとが互いに支えあう心豊かな社会を希求する点です。国内・国外を問わず、研究者や実務家、在野の活動家など、新たなパラダイムを構築し、その知見を社会に敷衍してゆく、たくましい意欲に溢れたすべての人へ門戸は開かれています。皆様からの積極的なご応募をお待ちしています。

Ⅱ 助成の枠組み

<カテゴリーA> 共同研究助成

1. 社会的課題の解決に資する実践的な研究

急速な科学技術の発展やグローバル化の進行は、私たちにさまざまな恩恵をもたらす一方で、地球規模での環境問題の発生、大規模災害に伴う社会生活基盤の混乱、国際テロや大量破壊兵器の拡散など、人間存在そのものにも大きな影響を与える課題を生み出しています。この枠組みでは、国内外の各地域や国際社会が直面する諸課題に対して果敢に取り組み、その解決をめざす共同研究に対して助成を行います。課題設定、方法論に加え、成果の活用や社会還元のあり方の具体性などを重視します。

研究の力が現状の局面を打破し、人と社会の望ましい未来の実現に寄与しうる実践的なテーマを期待します。

<対象となりうるテーマ例>

- ・感染症や気候変動、環境問題といった国際的な課題解決に向けたモデル構築
- ・民族紛争、経済格差といった地域間、国家間の問題に対する政策提言
- ・国内外において地域社会の再生・振興のための社会制度、手法の提案 など

2. 新たな社会の実現に向けた価値創出型の研究

私たち一人ひとりが支え合い、希望をもって生きられる社会を実現するためには、多様な価値観やあり方を相互に認め、他者と調和しながら、豊かな関係を構築してゆくことが不可欠です。この枠組みでは、知的好奇心に立脚した価値創出型の共同研究に対して助成を行います。短期的成果の見通しよりも研究者の想いやこだわり、視点の面白さ、自由な発想に立脚した先駆性、独自性などを尊重します。

長期的視点と試行錯誤のプロセスを重視し、現代社会に新たなパラダイムを提示しうる意欲的なテーマを期待します。

<対象となりうるテーマ例>

- ・思想的、哲学的課題の探究、未知なる課題の発見や問題提起
- ・現代社会に広く共有されている価値観や倫理観の問い直しと再構築
- ・伝統的な文化や風土、くらしのなかに埋もれていた智慧や知識の可視化 など

【「共同研究」について】

複数の研究メンバーが共通のテーマに取り組みながら実施する研究を指します。取り組む研究に応じて、文化的背景や専門性等、適切な広がりをもった人々で実施される体制が望まれます。

<カテゴリーB> 個人奨励助成

次代を担う研究者を支援する目的から、おもに若手や在野の方々が個人で実施する研究に対して助成を行います。分野やテーマを問わず自由でイノベーティブな視点やアプローチで課題に取り組み、かつ研究者自身の将来に資する研究を対象とします。この場合、研究の担い手は大学等、研究機関に所属する研究者に限りません。

Ⅲ 助成金額、助成期間

◆ 助成金総額 1億5千万円（合計）

◆ プロジェクト1件当たりの助成金額

<カテゴリーA> 共同研究助成1、2：上限額1000万円/件（2年間）

<カテゴリーB> 個人奨励助成：上限額200万円/件（2年間）

※ 1年研究の場合、助成の上限額はそれぞれ<カテゴリーA>：500万円、<カテゴリーB>：100万円となります。

※ いずれの枠組みも、応募者の国籍、所属、居住地などによる制限はありません。

◆ 助成期間 2011年11月1日から2012年10月31日までの1年間、もしくは2011年11月1日から2013年10月31日までの2年間とします。

研究種別	研究の性格	助成期間	1件あたりの助成上限額	助成予定総額
<カテゴリーA>				
共同研究1	複数のメンバーによる共同研究	2011年11月1日より1年間もしくは2年間	1000万円 (1年あたり500万円以下)	約6000万円
共同研究2				約6000万円
<カテゴリーB>				
個人奨励	若手および在野の個人研究	2011年11月1日より1年間もしくは2年間	200万円 (1年あたり100万円以下)	約3000万円
合計				1億5000万円

IV 当財団とのコミュニケーション

1. 助成開始(覚書の交換)

助成対象となったプロジェクトの主体(代表者)は、当財団と覚書を取り交わした上で、それにもとづいてプロジェクトを実施することになります。

2. コンサルテーション(相談、調整)

当財団のプログラム・オフィサーが、必要に応じ、代表者もしくは主要なメンバーの方を訪問し、プロジェクトの進捗状況やその時点での結果の見通しなどについてコンサルテーションを行います。

3. 活動報告会、ワークショップ、シンポジウム

プロジェクトの進捗状況、結果の見通しなどについて、代表者もしくは主要なメンバーの方にご報告いただくことがあります。その他、ワークショップやシンポジウムなどの開催も予定しています。

4. 報告書の提出(中間報告、完了報告)

当財団は、助成対象となったプロジェクトの主体に対して所定の期日までに「中間報告書」、「完了報告書」、「会計報告書」(所定用紙)の提出を求めます。中間報告に不備がある場合、次の送金を見合わせる場合がございます。ご注意ください。

5. 継続助成

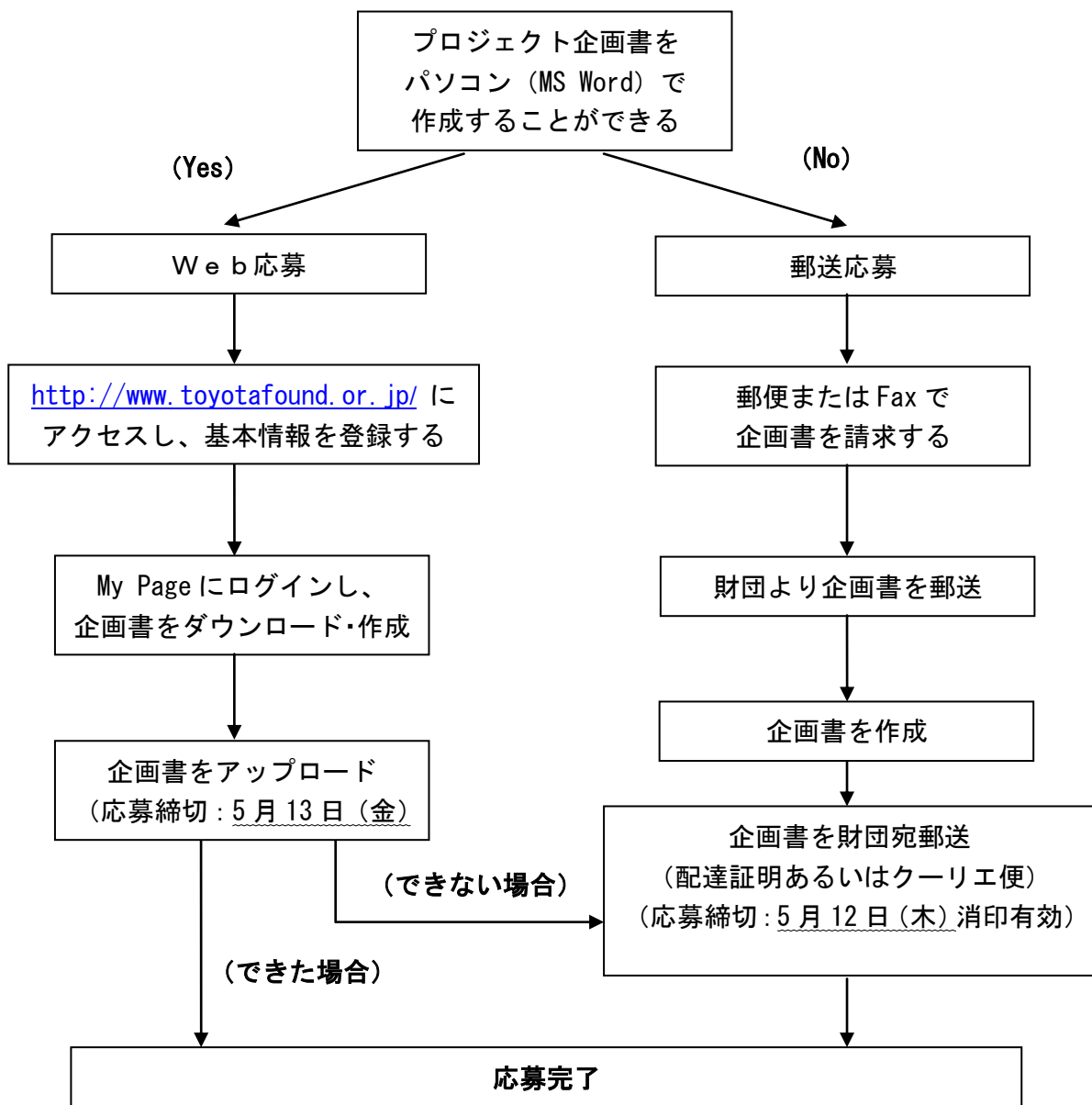
助成対象となったプロジェクトのメンバーでも、そのプロジェクトと関連性の高い新たなプロジェクトを企画し、次年度以降の本プログラム、または当財団の他のプログラムに継続助成として応募することは可能です。この場合助成の採否は、通常適用される選考の指標に加え、コンサルテーションや中間・完了報告などを踏まえた助成プロジェクトの実施状況や結果をもとに、総合的に決定されます。継続助成を希望される場合は、事前に担当のプログラム・オフィサーへご相談ください。

V 応募の手続きおよび選考について

1. 応募方法

財団Webサイト (<http://www.toyotafound.or.jp/>) の「Web応募」ページより、応募手続きが行えます。詳しくはWebサイトの「Web応募ガイド」をご覧ください。

《応募手続きに関するフローチャート》



■Web応募をご利用いただけない方へは、下記要領にて企画書をご送付いたします。

【研究助成プログラム・企画書希望】と明記の上、「お名前・送付先住所・電話（携帯）番号」をハガキ又はFAXにて「企画書提出先（お問い合わせ先）」にお申込みください。

なお、企画書ご提出の際は、下記の「2. 募集期間」をご確認の上、必ず、お手元に配達記録の残る〈簡易書留・特定記録〉または〈宅配便〉をご利用いただきご提出ください。

※ご注意※

- ・財団への持参、FAX やE-mail による提出は受け付けません。
- ・紙面の追加および財団所定の企画書（日本語・英語）以外の使用は認めておりませんのでご注意ください。

2. 募集期間

2011年4月1日（金）～5月13日（金）17時（日本時間）

■Web応募をご利用いただけない方

2011年4月1日（金）～5月12日（木）当日消印有効

※Web応募の場合と締切日が異なります。ご注意ください。

3. 選考方法

助成の可否は「研究助成プログラム選考委員会（委員長：桑子敏雄・東京工業大学教授）」にて選考を行った上で、本年9月開催（予定）の理事会で正式に決定されます。選考は、主として提出された企画書の内容にもとづいて行われますが、必要に応じて、プロジェクトに関するヒアリング調査への協力や、プレゼンテーションの実施をお願いすることがあります。

4. 選考結果

選考結果については、上記の理事会終了後、速やかに応募者（連絡責任者）に文書にてお知らせいたします。電話による採否のお問い合わせはご遠慮ください。

5. 提出時および提出後の注意事項

提出時の注意事項

Web応募

- ◆ 締切時の時間近くなりますと、回線が大変混雑し、送信（アップロード）できない恐れがありますのでご注意ください。
- ◆ Web応募の方は、下記の郵送等によるご提出はできません。また、同じ内容の企画書をWeb応募・郵送等の両方でご提出いただくことはできません。
- ◆ 必ずWebサイトの「Web応募ガイド」をご確認の上、ご提出ください。

[郵送等提出] Web応募をご利用いただけない方

- ◆ 応募に際しては、企画書（1部）のみご提出ください（添付資料は不要です）。
- ◆ 企画書は選考資料としてそのままコピーしますので、のり付けやホッチキスでの製本はご遠慮ください。
- ◆ 企画書を切り貼りして作成した場合は、必ずコピーしたものをお送りください。
- ◆ 企画書は片面印刷でのご提出をお願いします。両面印刷は認められません。
- ◆ 企画書右上の「受付番号」は事務局記入欄です。6月上旬頃に「受付はがき」にて「受付番号」をお知らせします。
- ◆ 5月12日（木）を過ぎた消印のある応募については、理由の如何にかかわらず受理いたしません。

提出後の注意事項

- ◆ 提出された企画書の差し替えは受け付けません。
- ◆ 提出された企画書の返却はいたしません。
- ◆ 企画書に虚偽の記述をしていることが明らかになった場合、仮に採択にいたっても助成の取り消しがありえますので、ご注意ください。
- ◆ 採否の理由に関するお問い合わせには応じかねます。

※企画書から得られた個人情報、選考および統計資料作成、応募者への連絡等事務作業に使用します。法令で認められる場合を除き、応募者の同意なく上記目的以外に使用することはありません。

企画書提出先（お問い合わせ先）

〒163-0437 東京都新宿区西新宿2丁目1番1号
新宿三井ビル 37階 私書箱 236号
公益財団法人トヨタ財団 研究助成プログラム
TEL : 03-3344-1701 FAX : 03-3342-6911
お問い合わせフォーム : <https://www.toyotafound.or.jp/inquiry/>

担当 : 楠田（くすだ）、大澤（おおさわ）



公益財団法人 トヨタ財団